

## [公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

### 5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

#### <事業計画>

教育改善のために ICT を利活用する FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、優れた授業研究の選考・表彰を通じて大学教育の質向上を図るため、文部科学省の後援を受けて、国立・公立・私立の大学・短期大学の教員を対象に、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施する。

#### <事業の実施結果>

「ICT 利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に委員会の活動状況を報告する。

#### ICT 利用教育改善発表会運営委員会

2021年(令和3年)5月22日、7月31日、2022年(令和4年)2月7日に平均8名が出席して3回開催し、ICT 利用による教育改善研究発表会における発表募集要項の作成、1次選考と2次選考の運営、Web サイトによる公表を行った。

##### (1) 発表者の募集

前年度の1月23日の運営委員会において発表募集要項を検討し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続きオンライン方式の開催とし、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を配信会場するとともに、以下の点について確認を行い、改めた。

- \* 発表募集要項のタイトルは、昨年度と同様「教育の質向上を目指す ICT 利用」とした。
- \* 教育改善の内容に「遠隔授業」を追加しことで、「申込用紙」を見直し、ICT を利用した取組みの欄に、遠隔授業として、「オンデマンド型、リアルタイム型、ハイブリッド型(対面授業と遠隔授業の組合せ)」と表記した。
- \* 教育改善の目的・目標の問題の所在について、「学修者一人ひとりの可能性を伸長する個別最適化への対応、遠隔試験の不正対策」を追加した
- \* 研究の目的・目標について、「ハイブリッド型授業の工夫・改善、遠隔授業の学修成果の測定評価」を追加した。
- \* 教育実践による教育効果について、以下の複数の観点から、総合的に教育効果の向上が認められるように周知することにした。

(LMS データ、ポートフォリオ等の分析、授業アンケート結果の経年変化とその分析、期末テスト等の経年比較とその分析、プリテスト・ポストテストの比較、ルーブリック評価結果の分析、第三者による外部評価の意見・分析、国家試験等の合格者数の経年比較の分析など)

##### (2) 発表者の選考

- ① 5月22日の運営委員会で56件の応募について書類選考を行い、55件についての発表を確定したが、後日1件の辞退があり、最終的な発表は54件となった。
- ② 1次選考は、8月25日(水)にアルカディア市ヶ谷の3会場において実施し、発表者を除き171名が参加した。発表者は事前に発表映像を提出し、13分間の発表映像を配信した後、質疑を5分間行った。質疑応答は、オンラインでの対応49名と、配信会場での対応5名で実施した。その上で、選考規程にもとづき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で1次選考を行った。
  - ※ 教育上の問題解決を図るために、ICT 利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること
  - ※ ICT を利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること
  - ※ 客観的な評価方法により、教育改善の効果が示されていること

その結果、2次選考の対象として8件を選考した。

発表内容の詳細は、巻末の2021年度事業報告の附属明細書【2-5】を参照されたい。

- ③ 2次選考は、9月25日(土)に実施し、選考委員全員で1次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞対象を選考した結果、以下の通り、奨励賞2件を決定した。

#### 2021年度表彰者

##### 【奨励賞】

「ピアノ個人レッスンにおけるICT利用による効果的な指導と自主的な学習への導き」

兵庫大学短期大学部 田中 敬子 氏

##### [授賞理由]

本研究は、ピアノの個人レッスンにオンライン会議システムを用いて、教員と学生が双方向で弾きあう指導方法や毎回レッスンの修得度を点検・記録するシートを授業支援システムで教員と学生に配布するなど、学生の自主的な学習へとつなぐ授業改善の取組みである。対面授業時よりも更に上のグレードを目指し、自主的に学修する傾向が多く見られ、結果として不合格者が半減した点は高く評価できる。また、対面では行えなかったICTによるグループワークやYouTube動画の視聴など教育方法の工夫により、学生の学修意欲が促進された。将来、学生の学び方改革にもつながる研究に今後の発展が期待される。

##### 【奨励賞】

「ハイフレックス型による体育実技『バスケットボール』の有効性」

流通経済大学 小谷 究 氏

##### [授賞理由]

本研究は、体育実技(バスケットボール)の満足度や参加度を対面授業と相違ないものとするため、対面とオンライン同時に実施するハイフレックス型授業による授業改善の取組みである。履修者50名を25名ずつ2グループに分け、交互に体育館とオンラインで授業を受けることで、実技の履修時間は半減したが、反面、オンラインでは実技の試合をタブレットで配信し、グループで観察・分析した課題を体育館にフィードバックすることで、オンライン学修者に授業への参加度を高めた。また、試合中のプレイヤーの行動がハイフレックス型授業の方が早く改善されることが示されており、対面授業よりもむしろ教育効果が高くなったという点が評価できる。

#### (3) 選考結果の表彰

表彰は、11月29日の第32回臨時総会で発表者を招待し、文部科学省専門教育課の塩川課長臨席の下、本協会向殿会長から、それぞれに奨励賞の楯と副賞(3万円)を授与した。

#### (4) 授賞論文の公表

本協会のWebサイトで公表した。



左から文部科学省専門教育課 塩川課長、受賞者の兵庫大学短期大学部の田中氏と流通経済大学の小谷氏、本協会向殿会長